

6 人間のからだと発達

- 6.1 性と生殖の解剖学と生理学
- 6.2 生殖
- 6.3 思春期
- 6.4 ボディイメージ

学習目標 (5～8 歳)

キーアイデア：

・自分のからだの名称と機能を知ることが重要で、性器や生殖器を含めてそれらに好奇心を抱くのは自然なことです。

学習者ができるようになること：

- ▶ 内性器と外性器の重要な部分を明らかにし、その基本的な機能を説明する。(知識)
- ▶ 性器を含め、自分のからだに興味を持つことは、ごく普通のことであると認識する。(態度)
- ▶ 気になるからだの部位について質問したり、答えたりしてみる。(スキル)

キーアイデア：

・障がいのある人も含め、誰もが尊敬に値するそれぞれにすばらしいからだを持っています。

学習者ができるようになること：

- ▶ 男性、女性、男子、女子のからだの同じところ、違うところ、そしてそれらが時間の経過とともにどのように変化するかを明らかにする。(知識)
- ▶ すべての文化が、人のからだを見るさまざまな視点を持っていることを説明する。(知識)
- ▶ 障がいのある人も含め、すべての人のからだは尊重に値するものであることを認める。(態度)
- ▶ 自分のからだの好きなところについて表現する。(スキル)

学習目標 (9～12 歳)

キーアイデア：

・誰のからだにも、性の健康と生殖に関わる部分があり、子どもたちがそれについて疑問を持つことはよくあることです。

学習者ができるようになること：

- ▶ 性の健康と生殖に関わるからだの部分を説明する。(知識)
- ▶ 自分のからだや性的機能について、好奇心や疑問を持つのは自然なことであることを認識する。(態度)
- ▶ 誰のからだも、さまざまな大きさ、形、機能、特徴があり、それぞれ異なりそれぞれに素晴らしいものであることを認める。(態度)
- ▶ 質問できる信頼できる大人を特定し、性と生殖に関する解剖学および生理学について質問する方法を示す。(スキル)

キーアイデア：

・女性のからだは月経周期の中で排卵する、男性のからだは精子をつくり射精する、このどちらもが生殖に必要です。

学習者ができるようになること：

- ▶ 生殖を引き起こすからだの重要な機能（例：月経周期、精子の産生、精液の射精）を説明する。（知識）
- ▶ 女性と男性のからだ、両方が生殖に重要な役割を果たしていることを説明する。（態度）
- ▶ 月経周期や精子の射精がどのように起こるのか理解していることを、自信をもって表明する。（スキル）

学習目標（12～15歳）

キーアイデア：

- ・ 思春期や妊娠中は、成熟や生殖に関わる多くのプロセスにホルモンが大きな影響を与えます。

学習者ができるようになること：

- ▶ 胎児の性別は染色体によって決定され、妊娠初期の段階で決定されることを説明する。（知識）
- ▶ ホルモンは成長、発達、生殖器官や性功能を調節する役割を果たすことを説明する。（知識）
- ▶ ホルモンが思春期や妊娠中において果たす重要な役割を認識できる。（態度）

キーアイデア：

- ・ セックス、ジェンダー、生殖への理解、またいつ性的に活発になることが適切かについての理解のしかたは、文化によってさまざまです。

学習者ができるようになること：

- ▶ セックス、ジェンダー、生殖に関する生物学的側面と社会的側面を区別する。（知識）
- ▶ 文化や宗教がセックス、ジェンダー、生殖に対する社会の見方に与える影響を比較対照する。（知識）
- ▶ セックス、ジェンダー、生殖について文化的、宗教的、社会的、個人的な見解が異なる可能性があることを認識する。（態度）
- ▶ セックス、ジェンダー、生殖についての自分の見かたを振り返り、明確に表現することができる。（スキル）

学習目標（15～18歳以上）

キーアイデア：

- ・ 男性と女性のからだは、生殖や性に関する能力と機能も含め、時間の経過とともに変化します。

学習者ができるようになること：

- ▶ ライフサイクル全体を通して男女の性と生殖に関する能力をまとめる。（知識）
- ▶ 人はライフサイクルを通して性的な存在であることを認識する。（態度）
- ▶ ライフサイクルを通じた生殖能力の変化について、どのように感じているかを表現する。（スキル）

6 人間のからだと発達

- 6.1 性と生殖の解剖学と生理学
- 6.2 生殖
- 6.3 思春期
- 6.4 ボディイメージ

学習目標（5～8歳）

キーアイデア：

・妊娠は、卵子と精子が結合し、子宮に着床して始まります。

学習者ができるようになること：

▶生殖のプロセス、具体的には、妊娠が始まるためには、精子と卵子の両方が結合し、子宮に着床する必要があることを説明する。(知識)

キーアイデア：

・妊娠は一般的に 40 週程度続き、その間に女性のからだは多くの変化をたどります。

学習者ができるようになること：

▶妊娠中に女性のからだがたどる変化について説明する。(知識)
▶妊娠中に女性のからだがたどる変化について、どのように感じているかを表現する。(スキル)

学習目標 (9~12 歳)

キーアイデア：

・妊娠が始まるためには、精子が卵子と結合し、子宮に着床するという条件が必要不可欠です。

学習者ができるようになること：

▶生殖に必要なステップを列挙する。(知識)
▶ペニスが膈内に射精する性交の結果で妊娠が起こりうることを再認識する。(知識)
▶性交によって常に妊娠するわけではないことを再認識する。(知識)

キーアイデア：

・精子があれば最も妊娠しやすい排卵前後の時期など、月経周期にはさまざまな段階があります。

学習者ができるようになること：

▶最も妊娠しやすい時期を含め、月経周期について説明する。(知識)
▶ホルモンの変化が、月経や最も妊娠しやすい時期を調節していることを再認識する。(知識)
▶月経周期がどのように機能しているかをポジティブに認識する。(態度)
▶月経についての自分の感情を振り返る。(スキル)

キーアイデア：

・妊娠には一般的な兆候があり、月経が来なかったり遅れたりしているときはできるだけ早く妊娠検査をして確認すべきです。

学習者ができるようになること：

▶妊娠の兆候と胎児の発育段階を説明する。(知識)
▶健康的な妊娠と出産へとつながるステップを的確に認識する。(態度)
▶妊娠を確認するために利用できる検査について説明する。(知識)

学習目標 (12~15 歳)

キーアイデア：

・生殖機能と性的感情には違いがあり、それらは時間の経過とともに変化することがあります。

学習者ができるようになること：

▶妊娠は計画的にすることも、防ぐこともできることを再認識する。(知識)

- ▶生殖機能と性的感情には違いがあることを理解する。(知識)
- ▶男性も女性も、性と生殖に関する機能や欲求は生涯を通じて変化することを認識する。(態度)
- ▶意図しない妊娠をこれからどう防ぐか、計画を立てる。(スキル)

学習目標 (15～18 歳以上)

キーアイデア：

・すべての人に生殖能力があるわけではなく、妊娠したいと思っている人のために不妊に取り組む方法があります。

学習者ができるようになること：

- ▶妊娠を希望しているが、不妊を経験している人の選択肢をあげる。(知識)
- ▶不妊に対処するための選択肢があることを認識する。(態度)
- ▶妊娠したいが不妊を経験している人への共感を示す。(スキル)

6 人間のからだと発達

6.1 性と生殖の解剖学と生理学

6.2 生殖

6.3 思春期

6.4 ボディイメージ

学習目標 (5～8 歳)

キーアイデア：

・思春期とは、子どもの成長と成熟にともなって起こる身体的、感情的な変化の時期です。

学習者ができるようになること：

- ▶思春期を定義する。(知識)
- ▶成長には身体的、感情的な変化がともなうことを理解する。(知識)
- ▶思春期は正常で健康的な青年期の一部であることを認める。(態度)

学習目標 (9～12 歳)

キーアイデア：

・思春期は人の生殖能力の変化を示します。

学習者ができるようになること：

- ▶思春期のプロセスと性と生殖システムの成熟について説明する。(知識)
- ▶思春期の間に起こる主要な身体的、感情的な変化をリストアップする。(知識)
- ▶思春期についての信頼できる情報を見つける方法を示す。(スキル)

キーアイデア：

・思春期の間、性と生殖に関わるからだを清潔、健康に保つためには、衛生的であることが重要です。

学習者ができるようになること：

- ▶ 個人の衛生管理と衛生習慣について説明する。(知識)
- ▶ 個人の衛生意識の重要性を理解する。(態度)
- ▶ 衛生に関する理解を、成長期に健康を維持するための個人の計画に応用できる。(スキル)

キーアイデア：

・月経は一般的なことで、女子の身体的成長の自然な一部であり、秘密やスティグマ（恥と罪の意識）として扱われるべきではありません。

学習者ができるようになること：

- ▶ 月経周期を説明し、この時期に女子が経験する可能性のあるさまざまな身体的症状や感情について説明する。(知識)
- ▶ 月経用ナプキンやその他の月経用品の入手方法、使用方法、処分方法を説明する。(知識)
- ▶ ジェンダー不平等が、月経中の女子の羞恥心や恐怖心にどのような影響を与えているかを再認識する。(知識)
- ▶ 月経期間中、月経用ナプキンやその他の月経用品、きれいな水、個室のトイレを利用できることは、すべての女子にとって重要であることを認識する。(態度)
- ▶ 月経中の女子が快適に過ごせるように、積極的で支援的な方策を示す。(スキル)

キーアイデア：

・思春期には、若者はさまざまな身体的反応（例：勃起、夢精）を経験することがあります。

学習者ができるようになること：

- ▶ 若い男性は、起床によって、または特定の理由なしに勃起を経験することがあること、およびこれが一般的なことであることを理解する。(知識)
- ▶ 思春期の若者の中には、夢精と呼ばれる、夜に勃起し射精することがあり、それは一般的なことだと再認識する。(知識)
- ▶ 勃起、夢精、その他の性的反応は思春期の一般的なことだと認識する。(態度)

学習目標（12～15歳）

キーアイデア：

・思春期は、身体的、感情的、社会的、認知的な大きな変化につながる性的成熟の時期であり、思春期を通して、興奮させるものであると同時にストレスを感じるものでもありえます。

学習者ができるようになること：

- ▶ 思春期と青年期を区別する。(知識)
- ▶ 思春期は人によって異なる時期に起こり、男子と女子で異なる影響を与えることを再認識する。(知識)
- ▶ 思春期に起こるさまざまなタイプ（例：身体的、感情的、社会的、認知的）の変化の例を評価し、分類する。(知識)
- ▶ これらの変化に関連して、女子と男子の類似点と相違点を比較する。(知識)
- ▶ 思春期は、一部の子どもたち、特にジェンダーアイデンティティが一般的ジェンダー規範に当てはまらない／当てはめられない、またはトランスジェンダー、インターセックスの子どもたちにとっては、特に困難な時期であることを認識する。(知識)
- ▶ これらの身体的、感情的、社会的、認知的変化は思春期には一般的なことであると認める。(態度)
- ▶ 思春期の変化を理由に他人をからかったり、辱めたり、スティグマを与えたりすることは、相手を傷つけ、長期的な精神的影響を与える可能性があることを認識する。(態度)
- ▶ これらの変化にどのように対処するかを示す。(スキル)

学習目標（15～18歳以上）

キーアイデア：

- ・ホルモンは、生涯にわたって人の感情的・身体的変化に大きな役割を果たします。

学習者ができるようになること：

- ▶ホルモンが生涯にわたって感情やからだの変化に果たす役割を分析する。(知識)

6 人間のからだと発達

6.1 性と生殖の解剖学と生理学

6.2 生殖

6.3 思春期

6.4 ボディイメージ

学習目標 (5～8 歳)

キーアイデア：

- ・すべてのからだは特別で個々に異なりそれぞれに素晴らしく、人は自分のからだを気持ちよく感じているべきです。

学習者ができるようになること：

- ▶すべてのからだは特別で、個々に異なりそれぞれに素晴らしいことを再認識する。(知識)
- ▶自分のからだに誇りを持つことの意味を説明する。(知識)
- ▶自分のからだをポジティブに認識する。(態度)
- ▶自分のからだをどう感じているかを表現することができる。(スキル)

学習目標 (9～12 歳)

キーアイデア：

- ・身体的外見は人間としての価値を決定するものではありません。

学習者ができるようになること：

- ▶身体的外見は遺伝、環境、健康習慣によって決まることを説明する。(知識)
- ▶身体的外見は、その人の人間としての価値を決定するものではないことを認識する。(態度)
- ▶仲間同士においても、さまざまな身体的外見を認め合う姿勢を示す。(態度)

キーアイデア：

- ・身体的外見において、何を魅力的だと感じるかには人によって大きな違いがあります。

学習者ができるようになること：

- ▶身体的外見において、人が魅力的に感じる部分の違いを説明する。(知識)
- ▶人がなにを身体的に魅力的に感じるかは、時間の経過とともに変化し、文化によっても違うことを認識する。(態度)
- ▶自分が何を魅力的に感じるか、またそれは他の人が魅力を感じるものとどのように違うかを考える。(スキル)

学習目標 (12～15 歳)

キーアイデア：

- ・ 自分のからだについての感じ方は、その人の健康、セルフイメージ、行動に影響を与えます。

学習者ができるようになること：

- ▶ 自分のからだを気持ちよく感じることの利点について説明する。(知識)
- ▶ 自分のからだの外見が、他の人の自分に対する気持ちや行動にどのような影響を与えるかを説明し、それが女子と男子でどのように異なるかを比較する。(知識)
- ▶ 外見を変えようとする人がよく行うこと(例：ダイエット薬、ステロイド剤、漂白クリームなどの使用)を分析し、それらの行為の危険性を評価する。(知識)
- ▶ 人々に自分の外見を変えたいと思わせる、ジェンダーに基づく美の基準を批判的に評価する。(知識)
- ▶ ボディイメージに関連した、人々を苦しめているさまざまな疾患(例：不安障がい、拒食や過食などの摂食障がい)について説明する。(知識)
- ▶ ボディイメージを変えるために薬物を使用することは有害になりうると認識する。(態度)
- ▶ ボディイメージに悩んでいる人をサポートするサービスへのアクセス方法を示す。(スキル)

学習目標 (15～18 歳以上)

キーアイデア：

- ・ 身体的外見の非現実的な基準に異議を唱えることができます。

学習者ができるようになること：

- ▶ 特定の文化的ステレオタイプ、ジェンダーステレオタイプや、それらがどのように人々のボディイメージや人間関係に影響を与えうるかを分析する。(知識)
- ▶ 身体的外見の非現実的な基準が有害になりうると認識する。(態度)
- ▶ 自分のボディイメージと、それが自尊心や性的意思決定、その後の性的行動にどのように影響しうるかを考える。(スキル)
- ▶ 身体的外見の非現実的な基準に異議を唱える方法を示す。(スキル)